

ロジスティクス環境会議
第11回源流管理による環境改善委員会

2005年5月27日(金)10:00~12:00
芝パークホテル 本館2F 桜

次 第

1. 開 会

2. 議 事
 - 1) 2005年度の活動計画について

 - 2) その他

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 2005年度の進め方(試案)
参考資料1 : 各委員会2004年度活動内容と2005年度活動計画
参考資料2 : チェックシート様式イメージ

以 上

源流管理による環境改善委員会 2005年度の進め方（試案）

1. 源流管理による環境改善委員会の活動方針（活動計画(案)より）

- 1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。
- 2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。

2. 2004年度の成果物に対する評価と2005年度の活動内容

2004年度の成果物（『ロジスティクス源流管理マニュアル ver.1』2005年3月16日）の内容を、1. に記した活動方針と照らし合わせてみると、以下のような観点から確認を行ったうえで、2005年度の活動を検討したい。

- 1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。

⇒ 基本的には『ver.1』としてまとめたが、見易さという点では改善余地がある。

※見本となる材料を提供いただきたい

⇒ 環境基本法や各種リサイクル法等の環境に関わる直接的な法規については、共通基盤整備委員会にて作成中。

その他の道路交通法等の間接的な関連法規については、取り組み内容に併せて洗い出しを行ってはどうか。

- 2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。

⇒ 『ver.1』の内容について、基本的な合意を得たい。

⇒ マニュアル作成にあたり、既に存在するトラック運行等の領域については、以下のようなものを参照することとし、当委員会では既存の図書が無い領域、例えば輸配送や包装資材等の物流計画の領域に絞り込んではどうか。

【既存マニュアルの例】

- ・『トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル』
交通エコロジー・モビリティ財団
- ・『エコドライブ推進マニュアル』全日本トラック協会
- ・『省エネ運転マニュアル』全日本トラック協会
- ・その他（何かあればご紹介ください）

6) 留意事項

(1) 企業間におよぶ内容については、省資源ロジスティクス推進委員会にて検討された内容をもって、マニュアルに盛り込みたい。

※発荷主企業・着荷主企業・物流企業間の物流における取引条件の是正ポイントと改善方策（『商慣行改善のためのチェックリスト（またはシート）』（仮）

(2) 上記（1）により、本年度のチェックシートの検討範囲は、取引先等の企業間も考慮をしつつ、自社の管理がおよぶ範囲に留めたい。

以 上

ロジスティクス環境会議の目的、目標と各委員会の2004年度活動報告・課題および2005年度活動計画

1. 環境会議の方針

- 1) 目的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築 ～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～
- 2) 目標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体との連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。
- 3) 期間：2003年11月～2006年3月（第1期）

2. 各委員会の活動方針・活動内容と課題・成果

委員会	活動方針	2004年度活動報告と課題	2005年度活動計画（案）
1) 源流管理による環境改善委員会	<p>(1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。</p> <p>(2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。</p> <p>【検討のステップ】</p> <p>第1ステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各企業が守るべきこと(法令、条例遵守事項) ・各企業がやるべきこと及びその対策① <p>※ロジスティクス・物流部門が管理・改善可能な範囲</p> <p>第2ステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各企業がやるべきこと及びその対策② <p>※ロジスティクス・物流部門から対他部門への提案</p> <p>※運送業・倉庫業等から荷主企業への提案（環境負荷低減を実現する物流サービスなど）</p>	<p>【活動(検討)内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業が環境負荷低減活動を促進するための、人材の育成、組織のあり方等の基本方針の検討 ・ロジスティクス・物流部門として環境負荷低減活動を促進するため、物流機能毎(包装、輸送、保管・荷役等)に、関係者が検討および実行すべき項目と内容の検討 ・マニュアルに具体的事例を盛り込むための情報収集 ・環境負荷低減策等の事例発表会の実施 <p>※荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業が管理・改善が可能な範囲に注力</p> <p>※各物流機能(包装、輸送、保管・荷役)の流れを整理し、各物流機能間の影響度の確認を行えるようにする。</p> <p>※各企業が守るべきこと(法令、条例遵守事項)については、共通基盤整備委員会に検討依頼（現在、共通基盤整備委員会にて原案作成中）</p> <p>【活動成果】『ロジスティクス源流管理マニュアル ver. 1』</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロジスティクス・物流関係部門ならびに物流企業(運送業・倉庫業等)がやるべき内容や、対策等について定量的な把握、評価するためのデータやツールの整備 ・マニュアルの見易さ、読み易さの工夫（絵やグラフを多用することで身近なマニュアルを目指す） 	<p>【活動(検討)内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷主企業のロジスティクス・物流部門から企画・設計、生産、販売、環境等の他部門への協力要請する内容のまとめ ・物流事業者から荷主企業に協力要請する内容のまとめ <p>【活動成果】</p> <p>『ロジスティクス源流管理マニュアル』のまとめ</p> <p>※定量化指標については、パフォーマンス委員会との連携を図り、活動評価項目として記載予定</p> <p>※源流を管理する目的や意思決定者、実行者の明確化および啓発・普及</p>
2) 省資源ロジスティクス推進委員会	<p>(1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その内容を整理する。</p> <p>(2) 荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって、課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。</p>	<p>【活動(検討)内容】</p> <p>製造業・流通業・物流業等が一体となって物流の環境負荷を低減するためのガイド作成にあたり、各社における環境活動の取り組み状況の把握および問題点・課題の整理</p> <p>※委員会メンバーの業種、製品群等により、以下3分野を整理</p> <p>①食品 ②機械器具・精密機器 ③素材(化学・鉄鋼等)</p> <p>※共同化、モーダルシフト等の切口から各社の取り組み事例の収集</p> <p>【活動成果】『省資源ロジスティクス事例集』</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって環境負荷低減とコスト低減の両立化の実現 ※物流の構造的問題の顕在化および定量化(わが国の高コスト物流体質の原因の解明) ※物流企業の活動に着目し、積載率等の物流効率化阻害要因の把握 ・荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業間における問題点の共有 ・サプライチェーンのあるべき姿とその実現策の考察 	<p>【活動(検討)内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調達物流、生産物流、販売物流等のサプライチェーンの全物流プロセスの問題点を荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業から抽出、整理、共有 ・荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業の協議による改善策の検討および実現のための指針のまとめ <p>【活動成果】</p> <p>『省資源ロジスティクス推進ガイドライン』(仮称)</p>
3) 共通基盤整備委員会	<p>環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備する</p>	<p>【活動(検討)内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロジスティクスの視点から、既存の用語集等には抜けている環境に関する用語の収集、整備（WEB版） ・行政、自治体、産業界、学界、団体等の環境、ロジスティクスに関わるURLの整備 ・研究会の実施（4回実施） <p>【活動成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『グリーンロジスティクス用語集』(仮称) ・『グリーンロジスティクスURLリンク集』(仮称) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用語集の定期的な更新とメンテナンス ・環境に関する国際動向（行政、自治体、企業の先進事例等）の情報収集と整備 	<p>【活動(検討)内容と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『グリーンロジスティクス用語集』(仮称) ⇒適宜更新と公開 ・『グリーンロジスティクスURLリンク集』(仮称) ⇒適宜更新と公開 ・『環境に関する国際動向の調査レポート』(仮称) ⇒大使館や在日出先機関等からの情報収集とその整理 ・セミナーの開催（2回/年） ・研究会の開催（1回/原則毎月） など

活動方針	2004年度活動報告と課題	2005年度活動計画(案)															
<p>4) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会</p>	<p>(1) ロジスティクス活動の環境負荷を低減するため、環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、標準的な環境パフォーマンスの算定方法と算定に必要なデータを整備する。 (2) 標準的な環境パフォーマンスの算定方法と算定に必要なデータを関係者に提案する。</p> <p>【活動(検討)内容】 ・算定方法の調査(算定範囲、算定式、データ入手方法) ・算定事例の整理 ・標準的な算定方法の検討</p> <p>標準式: 二酸化炭素排出量(kg) = 燃料使用量(l) × 二酸化炭素排出係数(kg-CO2/l) 準標準式: 二酸化炭素排出量(kg) = [走行距離(km) ÷ 燃費(km/l)] × 二酸化炭素排出係数(kg-CO2/l) 代替式: 二酸化炭素排出量(kg) = [輸送重量(t) × 輸送距離(km)] × 二酸化炭素排出原単位(kg-CO2/t·km)</p> <p>【活動成果】『二酸化炭素排出量算定ガイド(データ収集方法事例集) / 輸配送・トラック版 ver. 1』</p> <p>【課題】 ①環境会議メンバーによる上記算定式の評価 ⇒『算定ガイド』の利用促進(算定の事例、データの入手方法を記載) ②二酸化炭素排出係数、二酸化炭素排出原単位に関わる標準的な数値の整備およびその維持管理 ⇒環境省、国土交通省による実行を要望 ③按分方法の検討 ④他のパフォーマンス指標の検討 ・包装資材の使用量、廃棄量 ・トラック以外の輸送モードから排出される二酸化炭素</p>	<p>【活動(検討)内容】 以下2つのテーマについて緊急性・波及効果・実効性等の視点からLEMS[※]調査結果の検証後、優先度の確認および具体的な活動(検討)を実施 ・按分に関する基本的な考え方とその方法 ⇒トラック輸送に伴う二酸化炭素排出量 ・包装資材の使用量、廃棄量等の環境負荷算定の基本的な考え方とその算定方法</p> <p>【活動成果】 ・『二酸化炭素排出量按分ガイド/トラック輸送版』(仮称) ・『包装資材の環境負荷排出量算定ガイド』(仮称) ・『CGLメンバー企業の二酸化炭素排出量算定データ集』(仮称)</p> <p>◆提言の方向性 ・トラック輸配送に関わる二酸化炭素排出量の算定式の標準化 ・按分方法の標準化 ・包装資材使用量/排出量の算定方法の標準化</p> <p>※LEMS: JILS 総合研究所による経済産業省委託調査「環境調和型ロジスティクス調査」</p>															
<p>5) リバースロジスティクス調査委員会</p>	<p>(1) 循環型社会形成に向けて、今後本格的に必要なとされるリユース、リサイクルに関わるリバースロジスティクスのモデル(あるべき姿)をまとめる。 (2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスモデルの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提案を行う。</p> <p>【活動(検討)内容と課題】 参加メンバーの問題意識、商品の特性などにより、4分野(品目)を選定して調査を実施(委員会&勉強会9回、見学会3回)</p> <table border="1" data-bbox="834 1115 1819 1776"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>調査活動内容</th> <th>課題・解決方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.家電・OA機器</td> <td>PC・複写機・家電のリサイクル・回収システムについて</td> <td>業界共同静脈物流プラットフォームの構築が必要 ※添付資料参照 共同化推進の為には、情報等の標準化、包装材の標準化・リターナブル化、ならびに、静脈共同輸送に対する法規制の弾力的な運用の要望</td> </tr> <tr> <td>2.自動車</td> <td>ASR・リサイクル部品・廃タイヤについて</td> <td>ASR: H17年3月の結果をフォロー予定 リサイクル部品: 在庫ヒット率向上のための情報共有化ネットワーク構築と、消費者への積極的なPRが有効 廃タイヤ: 100%リサイクルを目指した、新品販売時の同時回収の実践が有効</td> </tr> <tr> <td>3.食品</td> <td>食品廃棄物のリサイクル状況、返品物流について</td> <td>製造業→卸売業→小売業→外食産業(消費者)の流通工程の流れから見ると、川下になるほどリサイクル率が低いため、分別→共同回収の工夫を行うことよってリサイクル範囲を拡大する</td> </tr> <tr> <td>4.物流(包装資材)</td> <td>パレット・宅配使用包装段ボール箱について</td> <td>リユース・リサイクルの促進が必要 木製パレットの再利用促進と、宅配使用ダンボール箱のリターナブル化を考察提案</td> </tr> </tbody> </table> <p>【活動成果】 分野別の『リバースロジスティクス調査報告書 ver. 1』(中間報告) 添付資料参照</p>	分野	調査活動内容	課題・解決方向	1.家電・OA機器	PC・複写機・家電のリサイクル・回収システムについて	業界共同静脈物流プラットフォームの構築が必要 ※添付資料参照 共同化推進の為には、情報等の標準化、包装材の標準化・リターナブル化、ならびに、静脈共同輸送に対する法規制の弾力的な運用の要望	2.自動車	ASR・リサイクル部品・廃タイヤについて	ASR: H17年3月の結果をフォロー予定 リサイクル部品: 在庫ヒット率向上のための情報共有化ネットワーク構築と、消費者への積極的なPRが有効 廃タイヤ: 100%リサイクルを目指した、新品販売時の同時回収の実践が有効	3.食品	食品廃棄物のリサイクル状況、返品物流について	製造業→卸売業→小売業→外食産業(消費者)の流通工程の流れから見ると、川下になるほどリサイクル率が低いため、分別→共同回収の工夫を行うことよってリサイクル範囲を拡大する	4.物流(包装資材)	パレット・宅配使用包装段ボール箱について	リユース・リサイクルの促進が必要 木製パレットの再利用促進と、宅配使用ダンボール箱のリターナブル化を考察提案	<p>【活動(検討)内容】 循環型社会形成に貢献できる循環型ロジスティクスモデルのあるべき姿をまとめる 全体の進め方: ①実態と課題を更に調査把握 ②あるべきモデルとその実現策の考察 ③提言(企業・業界・行政・消費者など)</p> <p>提言の方向性: リバースロジスティクスを速やかに構築し、円滑に機能させるため、 ①企業や業界が自主行動(共同化・標準化・リターナブル包装化など)すべき事項 ②上記活動のために、行政に対する廃掃法を含む法規制の適切・柔軟な運用の要望事項 ③必要に応じ消費者への要請事項(普及啓発)などを整理する。(行政とは望ましい方向性などについて情報交換の場を設ける)</p> <p>各分野の進め方: 1.家電・OA機器 共同化、標準化、法規制などについて、更に詳細調査し、実現策と提言をより現実的なものにする 2.自動車 リサイクル部品・廃タイヤの深堀調査を継続、実現策と提言を更に現実的なものにする ASRのリサイクル法によるリサイクル実績調査と、(問題あれば)解決策考察と提言作成 3.食品 川下(消費者・小売・卸)におけるリサイクル率向上のため、共同回収→再資源化の流れの構築を目指す。実現可能な範囲で、返品物流の共同回収モデルを踏まえた提言も作成 4.物流(包装資材) パレット共同回収の実態および宅配便包装資材の廃棄状況の実態を調査し、リサイクル率向上の具体的策と提言を作成</p> <p>【活動成果】 分野別の『リバースロジスティクス調査報告書』 ※単なる調査だけに止まらず、分野別の「業界共同循環型ロジスティクス・プラットフォームモデル」の考察、実現策提示までを目指す</p>
分野	調査活動内容	課題・解決方向															
1.家電・OA機器	PC・複写機・家電のリサイクル・回収システムについて	業界共同静脈物流プラットフォームの構築が必要 ※添付資料参照 共同化推進の為には、情報等の標準化、包装材の標準化・リターナブル化、ならびに、静脈共同輸送に対する法規制の弾力的な運用の要望															
2.自動車	ASR・リサイクル部品・廃タイヤについて	ASR: H17年3月の結果をフォロー予定 リサイクル部品: 在庫ヒット率向上のための情報共有化ネットワーク構築と、消費者への積極的なPRが有効 廃タイヤ: 100%リサイクルを目指した、新品販売時の同時回収の実践が有効															
3.食品	食品廃棄物のリサイクル状況、返品物流について	製造業→卸売業→小売業→外食産業(消費者)の流通工程の流れから見ると、川下になるほどリサイクル率が低いため、分別→共同回収の工夫を行うことよってリサイクル範囲を拡大する															
4.物流(包装資材)	パレット・宅配使用包装段ボール箱について	リユース・リサイクルの促進が必要 木製パレットの再利用促進と、宅配使用ダンボール箱のリターナブル化を考察提案															

